



創業100年目の 「ふくもと畳店」

県内屈指の老舗畳店、樋原市山之坊町の「ふくもと畳店」は、大正10(1921)年の創業。今年でちょうど100年の節目を迎える。4代目当主となった福本亮さん(30)と3代目の父・和生さん(62)の息の合った職人技で家業を盛り立てる。中国産が幅を利かせるイグサ畳だが、あくまでも天然染土の国産イグサにこだわる。日本家庭の足下を支える和の文化を継承するため、5年前にオリジナルの畳縁(へり)「和鹿奈(わかな)」を開発して商品化した。一方、和鹿奈を使った小物入れなどの新製品も販売し、女性や外国人に好評。磨き上げた親子2代の技術力と新しい発想による行動力で将来へ繋げる。

Made
in
奈良

橿原市 ふくもと畳店



4代目の手縫いの技術もさえる

日本家屋の和室に使わわれているイグサ畳。現在、国内に出回っている畳の6割が中国産のイグサ。国内では生産農家約400軒の熊本県産がほとんど。和生さんの次男・亮さんは「材料には特にこだわっています。熊本県まで行って、製織体験などに積極的に参加しています。あとは農家さん巡り。実際に行つて熊本で目利きの勉強もし、厳選した仕入れをしています。材料のイグサは9割5分、熊本県産なので、と畳表（おもて）主産地の奥深い品質の違いにこだわる。

ただ、厳しい状況には変わりはない。国産イグサの需要が減ってきてている背景に、農家の後継者不足があり、市場に中国産イグサが出回り、化学表というものがハウスメーカーなどで使われていることがある。

当初は全く継ぐ気がなかつたという亮さんだが、就活で手伝っている期間にい

畠の張り替えで一番人気は、厳選された原産地のイグサを使つた畠で一帖1万5000円～2万円ぐらい。「10万円のものもたまに出来ます。それはイグサのトップクラスです、農林水産大臣賞などを取つてゐるものですね。実際にお会いして、仕入れて売れましたので。それなりに新しいや

日本家屋の和室に使われているイグサ畳。現在、国内に出回っている畳の6割が中国産のイグサ。国内では生産農家約400軒の熊本県産がほとんど。和生さんの次男・亮さんは「材料には特にこだわっています。熊本県まで行って、製織体験などに積極的に参加しています。あとは農家さん巡り。実際に熊本で目利きの勉強をし、厳選した仕入れをしています。材料のイグサは9割5分、熊本県産なので、と、畳表（おもて）主産地の奥深い品質の違いにこだわる。

一番古い畳は、1300年前の奈良時代に東大寺・正倉院に納められた畳。「畳」という文化、奈良時代からの和の伝統を継承していくたいというところと、観光振興や地域の活性化というところに畳は欠かせません。畳の需要が少なくなってきた中でも、若い方に一部屋だけでも畳を入れてもらえたなら、といつも思っています」と、目を輝かせる。

国産イグサにこだわり和の文化継承 畳縁「和鹿奈」使用の新商品に人気

地域のデザイナーと協力し、和紙などの畳表の角を覆う畳縁の表面に、奈良の鹿と正倉院文様（葡萄唐草）のデザインを施し、開発商品化した。これがオリジナルの畳縁「和鹿奈」。

亮さんは「畳発祥の地」という形でお話しさせてもらっています。『正倉院文様』の柄のものはザ・カシハラ（旧樋原ロイヤルホテル）、最上階のスイートルームに「も納めさせてもらつています」と自信をのぞかせる。和鹿奈を使った小物の新

り方です。知らない人もいますからね。実際に行くことで見る発見は大きいです」と、自身の体験談には説得力がある。

コロナの影響で「畠の張り替えは少なくなってきているのが現状。去年も緊急事態宣言中は動けなかつたので。この業界は波が激しいです。忙しい時はめっちゃ忙しいし、ない時はがくっと落ちますから。間違いないなく厳しい業界とは思っています。それでもこの仕事を就いた以上はどうにかしないと」と決意がみなぎる。

昔から、日本家屋にぐつ
ぶりと溶け込んできた畳
部屋のふすまを開け、畳に
足を踏み入れた瞬間の布ざ
れの音の静寂さ。思い切つ
て大の字に寝転がった時の
安心感。ほんのり漂うイグ
サの香り。畳は消臭効果
抗菌効果、それに調湿効果
を併せ持つ。

も。「いずれ和鹿奈で奈良の観光産業を下支えしたい。お客様に、しっかりととしたものを伝えるためにも、SNSなどを利用して情報発信していくことが大事になってしまいます」と話す亮さん。

どんどん増やしていきたいです。畠についてまだまだ分からぬこともあります。ですが、私の講演を通して一人でも多く、国産イグサの畠の良さを知つてもらえたう」と期待を込めた。

商品も数をそろえる。気軽に観光客が買えるようなティッシュケース、ストラップ、髪どめ、小銭入れ、マグネットになっているくるみボタンなど。千円以下のものがほとんど。道の駅東大寺の門前市場の「夢風ひろば」などに置いているカラード10色あり、「可愛い」と評判で「土産用」というより、自分で2～3個買つていく人が多い」という。

ほかに、裏打ちしているものと裏打ちしているものがある「特注」の小さいトートバックのようなもの

ません」と力を込めて話す。
一言で畠といつても、いろんな種類がある。イグサにもいろいろな品種があり、安価な畠と高価な畠の違いは実際に見て初めて分かる。という。イグサの原産地・熊本の農家へ度々訪れた時の体験談の講演、実演の機会は県内では他では見られない。

「私の講演を実際に聞かれて、『国産って良いものなのだな』と分かってくれた人からのご依頼もありました。そういうことが増えています。これからも

<http://fukumoto-tatami.com>



○住所= 横原市山之坊町321
○電話番号= 0744(22)4937
○ファクス番号= 0744(24)4777